

九州大学を学問の府に

学問の府

- ・真理を求め、真理に基づいた発言と行動
- ・市民全体に対して直接責任を負った発言と行動



理学研究院長

小 田 垣 孝

九州大学の活動

総長

理事 (キャンパス)

理事 (構造改革)

理事 (広報・図書)

理事 (総務)

理事 (教育)

理事
(企画研究財務)

理事 (産学連携)

理事 (国際交流)

部 局 長

文学部・府 研究院

比較社会文化学府 研究院

教育学部

人間環境学府 研究院

法学部・府 研究院 法務学

経済学部・府 研究院

言語文化研究院

理学部・府 研究院

数理学府 研究院

医学部・府 研究院

歯学部・府 研究院

薬学部・府 研究院

システム生命科学府

工学部・府 研究院

芸術工学部・府 研究院

システム情報科学府 研究院

総合理工学府 研究院

農学部 研究院 生物資源環

生体防御医学研究所

応用力学研究所

先導物質化学研究所

九州大学病院

学部教育 11学部 11,700名

大学院教育 17学府 6,300名

研究・医療 16 研究院 3 研究所 1 病院 教員 2,300名
事務・技術職員 2,000名

社会貢献

国際貢献

九州大学の戦略的取組み

＝変革し飛躍する九州大学の挑戦＝

総長トップマネジメントによる経営戦略

○「4-2-4アクションプラン」

大学の重点活動分野の明確化
大学の将来構想の明確化

教員の活動に対する支援策

「教育」「研究」「社会貢献」「国際貢献」
「実績に基づく新科学領域への展開」
「歴史的・地理的な必然が導くアジア志向」
「人」「資金」「時間」「研究スペース」

○5S運動

職員に対し「責任」「スピード」「専門性」「先見性」を持った業務の遂行による
「信頼」の醸成を奨励

新キャンパスへの統合・移転

○新キャンパス・プロジェクトの推進

- ・九大を核に自治体、経済界と連携した学術研究都市構想の推進
- ・新キャンパスを利用した先駆的研究プロジェクト
水素利用技術やシステムLSIの研究の実験キャンパス
- ・新キャンパスに情報発信拠点（ビッグオレンジ）を設置
新キャンパスの限らない可能性を社会にアピール

新病院の建設

○最先端かつ安全、安心、快適な病院の建設

経営のイノベーション

○総長のリーダーシップによる学内の研究費やポストの戦略的・競争的な配分

＝「4-2-4アクションプラン」の具体化

- ・総長裁量の定員枠による戦略的拠点形成
13名の総長裁量定員を投入し、「バイオアーキテクチャー・センター」「未来化学創造センター」の創設と「システムLSI研究センター」を強化
さらに、人員を投入し2拠点（デジタルメディスン・イニシアティブ、アジア総合政策センター）の設置を予定
- ・研究スーパースター支援プログラム
九州大学あるいは日本を背負う可能性がある将来のスーパースターとして期待される若手教員を、資金面から積極的に支援
- ・学内公募型教育研究助成プログラム「教育研究プログラム・研究拠点形成プロジェクト（P&P）」の実施（平成16年度 約1.7億円）

○総長を中心とした意思決定システム

- ・理事（8名）、総長特別補佐（7名）を中心とした「拡大役員会」の設置
自由討議による執行部の問題意識の共有
- ・各種委員会の運営を理事中心で行う体制の確立
- ・総長と部局との直接対話
総長や理事が構造改革の必要性を部局構成員に直接説明
- ・総長選考規程の見直し
構成員の半数が学外者の選考会議による総長選考
中期目標を意識した任期の設定（6年間一貫任期制）

○ 責任ある適切な人件費管理

- ・人件費管理を一体的に行い、機動的な人員配置を実施
人件費委員会による人員配置、人員の推移の点検、人件費執行状況把握

○ 積極的な情報発信への対応

- ・教員が自らの教育研究活動を点検するための「大学評価情報システム」の構築とデータのホームページでの公開（毎月 60,000 件のアクセス、海外からも 3,000 件）

○ 増収や経費節減のための積極的な取り組み

- ・物流管理システム等の見直し等による九州大学病院における収支改善
- ・非常勤講師委嘱の抑制
- ・経費業務のアウトソーシング
- ・事務コスト削減のための業務改善アイデア・コンテスト

九州大学の現状

- 大学の意思決定が極めて不透明
- 総合大学のもつ多様性の軽視
- 学部・大学院教育の改革の停滞
- 各部局の教育・研究が危機的状況
一予算、人員の極端な偏り
- 多くの事業の自己目的化
- 移転事業による教育研究経費の圧迫

教育機能の強化

・ 21世紀プログラム課程の推進

既存の大学の学部の枠組みを超えた横断的な教育プログラムを提供することによって「専門性の高いゼネラリスト」を育成

・ 高校と大学の連携を推進

高大連携シンポジウム、サマースクール・体験授業等の実施

・ 学生の自己啓発促進のためのスキルアップ・プログラムを創設

自己表現能力育成プログラム、新入生全員対象のTOEFL模擬テスト事業、英語コミュニケーション能力養成プログラムの実施

・ 学生の経済的支援を含めた国際交流プログラムを推進

アジア学生交流プログラム（ASEP）の実施

英語による短期留学サマーコース（ATW）の実施

フレンドシップ奨学生制度（九大独自の奨学金制度）の推進

短期語学留学を推進

・ サテライト・キャンパスによる教育実施

実践的教育を行うための教育研究の場を設定

（システムLSI研究センター，リーガルクリニック）

その他

- ・ 入学料免除、授業料免除枠の拡大
- ・ 学生後援会による学生支援（奨学事業、課外活動援助）
- ・ 福利厚生施設、課外活動施設の整備
- ・ 新キャンパスにコンビニエンスストアの導入を検討

○就職支援の充実

- ・ 就職相談体制を充実し、各キャンパスで実施
- ・ キャリア支援のためのガイダンス、企業家セミナーなどの実施

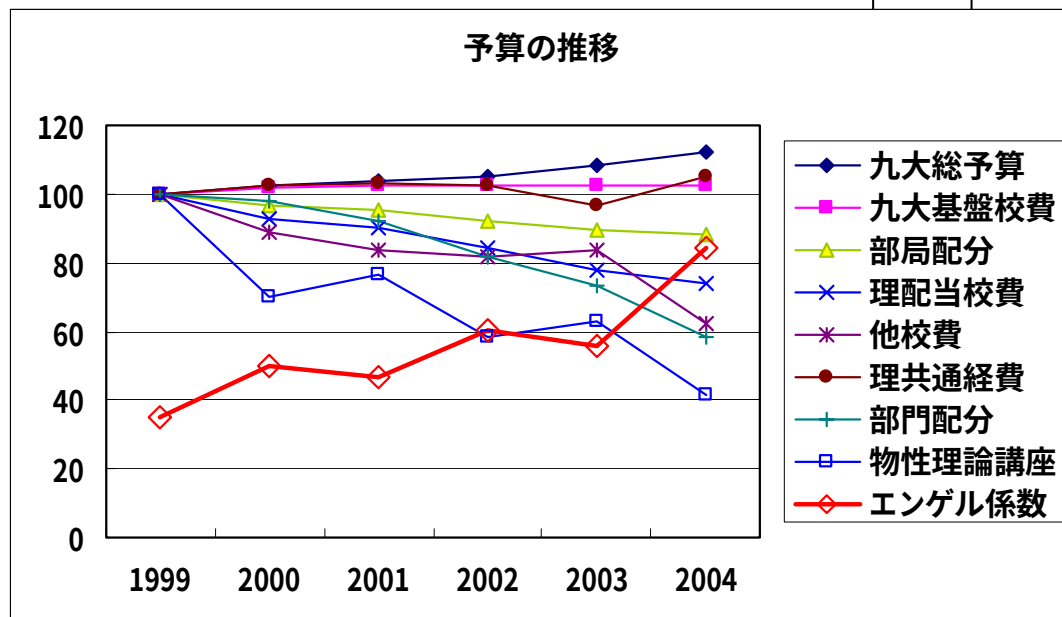
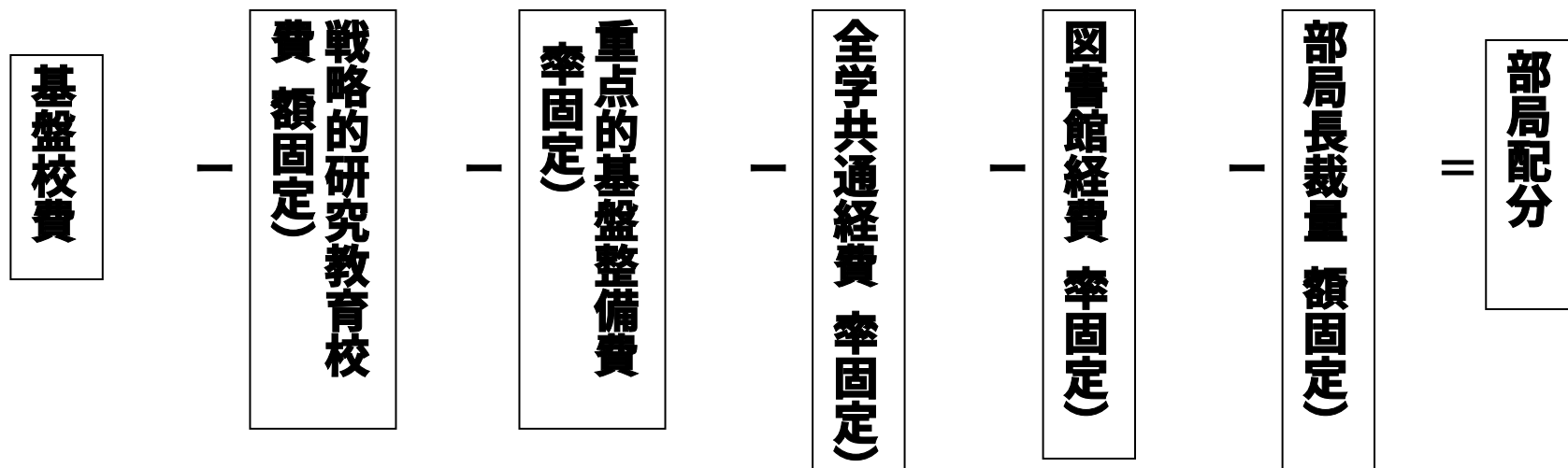
研究活動の活性化

- ・研究戦略企画室が戦略的研究企画を推進
 - 科学技術・学術審議会等の答申等の分析
 - 21世紀COEプログラムの評価
 - 学内共通利用施設を利用した公募型研究の評価
- ・リサーチコアの対外活動を支援
 - COE形成の推進に相応しい部局の枠を超えた研究グループを「リサーチコア」として正式に認定し、研究活動、研究費申請、人材流動化、講演会などの対外活動を支援
- ・本学主導で開催した「アジア学長会議」の参加校との共同研究・人材育成の推進
 - 若手研究者交流プログラムの開発
 - 共通カリキュラムの開発

海外への情報発信・収集活動の強化として、アジア・ヨーロッパ・アメリカ・オーストラリア・ニュージーランドの5つの地域に、ミューンヘン、ソウルの4カ所に設置

- ・ソウル大学内にブランチオフィスを開設
 - 特任教授が常駐し、教育研究に係る情報発信及び収集
- ・東京オフィスの充実
 - 常駐職員を配置、情報収集・発信機能を充実
- ・大学のロゴマーク等を制定
 - 大学のロゴマークを商標登録すると共に、スクールカラーの制定
 - 大学のイメージアップのためロゴマークを活用した商品を開発
- ・アジア大学生会議、アジア高校生会議の開催
 - 九州大学の企画力を活用し、学生レベルの国際交流促進

予算配分の現状



研究室エンゲル係数
= 最低必要経費 / 配分校費

運営方針

- 部局長・役員会の連携の強化により、各部局の教育・研究の活性化
- バランスのよいリーダーシップ
 - ・スターリン型ではなくケネディー型のリーダー
- 部局への予算配分の確保・事業の見直し
- 定員凍結・定員削減の考え方の見直し

教育・研究

■ 学部教育

- ・全ての学生の目線に立った、4年一貫教育
- ・全学教育の充実・学部教育の組織的な改革

■ 大学院教育

- ・全ての博士課程学生の経済的支援
- ・大学院教育の実質化・大学院G Pの支援

■ 研究

- ・多様な研究分野の存在は九州大学の特徴
- ・応用研究とともに基盤的基礎研究・人文社会分野の支援
- ・独創的研究の支援・個人研究の重視
- ・研究環境の整備

社会貢献

- 直接市民・小・中・高校生にむけた貢献
- リカレント教育・生涯教育の強化
- 産学連携の推進

国際貢献

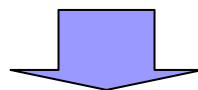
- 学生及び教員のアジア・世界の大学との実質的な交流
- ユネスコの勧告の尊重・国際機関との連携

移転事業の再検討

■ 17, 18年度事業の完成

19年度以降の事業

- 福岡市・福岡県：産業の振興
- 国：経費節減
- 九州大学：少子化の中で多くの優秀な学生の確保と教育研究の充実



- 2001マスタープランを見直し、これらの全てを満たす新しいプランを検討

九州大学のさらなる発展に向けて

- **多様性と個人を尊重し、全ての構成員が輝ける大学**
- **全ての学生・教員・職員が学び働くことに誇りと希望がもてる大学**
- **真理にのみ基づいて発言・行動できる大学**
- **福岡が学術・文化の一大拠点となる原動力**
- **アジア・世界に向けて情報発信できる大学**

伊都キャンパス

科学技術研究都市
ハイドロジェンヒル

堅粕キャンパス

医療・生命科学
の拠点

箱崎キャンパス

リベラルアーツ・
サイエンスの拠点

